

公益財団法人 庭野平和財団

# I. 平成 23 年度 事業報告

(平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

## 1. 事業報告

### A. 宗教的精神にもとづく平和のための活動と研究を推進する事業

#### 1. 活動に関する社会調査・資料収集事業

宗教組織および市民組織が行う平和のための活動に関する社会調査・資料収集を行いその結果を公表する。主たる目的は、それぞれの組織関係者の意識向上をはかることで、それぞれの組織活動の質的向上を目指し、宗教的精神にもとづく平和のための活動に資する。

(1) 第二回社会調査「宗教団体の社会貢献活動に関する調査」。

- a. 事務局内部で、第一回社会調査(2007年10月実施)の結果に関する検討・研究を行い、第二回社会調査のための質問項目案を作成した。特に、今回の調査には、2011年3月11日の東日本大震災の発生直後から、宗教者が取り組んできた支援活動に対する社会の認知、評価を測る項目も盛り込んだ。一本来ならば、第2回調査は、第一回調査から5年後の2012年に実施の予定であったが、大震災時における宗教者の支援活動等に関する社会の記憶があいまいになる前に実施することを決定した。
- b. 専門家(国学院大学教授石井研士先生)のご指導の下、第二回社会調査の質問項目の最終化および調査方法・時期(平成24年度4月実施予定)の確認を行った。

(2) 第二回社会調査の結果の検討・研究

調査結果の検討・公表の方法も検討した。(平成24年4月の調査終了後、結果の分析を行ない、解説を添付してマスコミ関係者に配布し、同年6-7月

に、東京および関西で学習会を開催する予定。)

### (3) 情報・資料収集

#### a. 第三回「9条アジア宗教者会議」

平成23年10月5日-7日、第三回「9条アジア宗教者会議」が、10月4日の現場研修のあと、沖縄県中頭郡西原町の沖縄キリスト教学院大学を主会場に開催された。同実行委員会が主催、公益財団法人庭野平和財団（庭野欽司理事長）が協賛し、2007年の東京、2009年の韓国ソウルにつづいて二年ぶりの開催となった。

参加者は、韓国、タイ、香港、台湾、パキスタン、南アフリカ、フィリピン、スイス、イタリア、カナダ、アメリカ、日本などからキリスト教、イスラム教、仏教などの宗教者220人。開催地の沖縄からは多数のオブザーバーが参加した。

野口専務理事が準備委員として参加し、日本国憲法9条と沖縄の米軍基地をめぐる宗教者の意見を聴取するとともに、国内外の宗教者と意見交換を行い、主として「憲法9条」をめぐる外国の宗教者の意見、および沖縄の米軍基地をめぐる問題にたいする今後の活動について情報を収集した。

#### b. 韓国済州島江汀村および韓国キリスト教協議会本部訪問

平成23年12月5日-8日、韓国教会協議会（NCCK）の主催により、済州島への国際諸宗教連帯訪問団の派遣が行なわれ、海外からは、米国、カナダ、台湾、日本、アジア・キリスト教協議会（CCA）から12名、韓国内から曹溪宗、カトリック、新教、円仏教などから8名、合計20名が参加し、庭野平和財団からは、野口専務理事がオブザーバーとして参加した。

済州島訪問の後、ソウルに移動し、韓国キリスト教協議会本部を訪問し、外国からの宗教者と韓国の活動的な宗教者と意見交換を行い、彼らの済州島江汀村における海軍基地反対活動に関する情報を収集した。

今回の訪問計画は、2011年10月に沖縄・那覇市で開催された第三回「9条アジア」宗教者会議で検討されたもので、その会議の焦点の一つは、アジア地域における軍事化について、沖縄、済州島、さらにフィリピンにおいて拡大する米国軍事基地の問題であった。

## 2. 普及啓発活動

公益目的事業（庭野平和賞の事業と助成事業を含む）の成果を、宗教組織及び市民組織の関係者を主たる対象に、セミナー、シンポジウムの開催による普及啓発を図る。宗教組織および市民組織の人材育成、専門知識の取得及び組織の活動の充実を目指す。

### （1）GNH（Gross National Happiness（国民総幸福度））および地元学に関する現地学習会、シンポジウムの開催

#### a. 韓国諸宗教者地元学スタディーツアーの開催

平成23年8月22日―26日、（東京都豊島区ならびに熊本県水俣市にて実施）韓国宗教者フォーラムの代表ジョン牧師および7名の参加者が来日し、東京都豊島区で、立正佼成会豊島教会を訪問し、横浜大学名誉教授宮脇昭先生の指導による豊島区内の緑化活動について福田教会長ら関係者より説明を受けた後、豊島区内にある緑化の現場を見学し、豊島区職員、学校関係者から説明を受けた。

その後、水俣市に移動し、市内の相思社にて、吉井正澄元水俣市長（1994年―2002年）からテーマを「水俣病のあらましとその克服」とした講演をいただき、水俣市頭石（かぐめいし）地区の「村丸ごと生活博物館」を訪問し、現地学習として、村の見学と担当者との交流を図った。さらには、水俣病患者の家族の方から、直接ご家族の体験をうかがう機会があった。現地学習会の締めくくりとして、「水俣病資料館」元館長、地元学ネットワーク主宰の吉本哲郎氏から氏の提唱する「地元学」に関する講義があり、東京経由で帰国した。

#### b. 水俣地元学スタディーツアーの開催

平成23年10月14日―16日、熊本県水俣市で、関西大学社会学部草郷孝好教授を講師に開催した。なお、参加者は15名であった。本年の現地学習会は、3月11日の震災の影響もあり、4月22日―24日に計画していた学習会を延期し、開催した。

#### c. 第三回GNHシンポジウムの開催

平成23年11月16日、東京・中野区中野サンプラザにて立教大学大学院教授の内山節先生に基調講演をお願いし、基調講演の後、草郷孝好教授（関西

大学) および榎ひさ恵氏(「明るい社会づくり」運動理事長、立教大学大学院講師)を交えて開催した。参加した聴衆は、宗教団体職員、学生を含めて約100名であった。

## (2) 京都シンポジウム(一般公開)

3月11日の東日本大震災の影響により、本年の庭野平和賞贈呈式、および「京都シンポジウム」は例年どおり5月に実施できなかった。

平成23年7月23日、京都市にある立正佼成会京都教会において、第28回庭野平和賞受賞をスーラック・シバラクサ氏に贈呈するとともに、同氏による記念講演会を実施した。参加者は、京都を中心とした宗教者、マスコミ等120名。

## (3) 「東アジア平和フォーラム」の記録出版

2010年11月6日-8日、韓国・ソウルで開催された第三回「東アジア平和フォーラム」ソウル会議の内容が、2011年4月発刊の岩波書店「世界別冊No.816」に『シンポジウム 2050年の東アジアー国家主義を超えて』として掲載された。

## (4) 「現代世界の危機における宗教と宗教研究の役割」(NPFプログラムで継続-2009年終了)の研究成果発表。

2010年より、研究成果の日本語訳を進めてきたが、2011年に編集が終了し、2012年には、上智大学出版会から出版される予定。出版にあわせて、記念シンポジウムを開催の予定。

## (5) 第三回「9条アジア宗教者会議」報告会の開催

2011年10月8日、東京・新宿の牛込聖公会バルナバ教会で、2011年5日-7日、沖縄県那覇市沖縄キリスト教学院大学を会場に開催された第三回「9条アジア宗教者会議」(参加者:国内外の宗教団体、約44団体、220人)の報告会を行った。

報告会は第三回会議の意義と日本国憲法9条をめぐる宗教者の今後の活動について検討するために開催されたもので、国内外の宗教者約50人が参加し

た。

報告会では、主催者を代表して大倉一美神父（カトリック正義と平和事務局）が開会挨拶、野口陽一氏（庭野平和財団専務理事）が会議の経過報告を行ったあと、6人の会議参加者による報告が行われた。

#### （6）ウェブサイト、E-mail 等を利用した情報公開

上記報告内容の中、下記のことを、当財団の Website にて掲載し、公表した。

1 - (1) , 1 - (3) -a, 1 - (3) -b.

2 - (1) -a. , 2 - (1) -c.

2 - (5)

### **B. 宗教的精神にもとづく平和のための活動と研究に功績のある者に対する褒賞事業**

宗教的精神にもとづく平和のための活動と研究を通して、人びとの幸福と平和な社会づくり、ひいては世界平和の推進に顕著な功績をあげた個人、または団体を表彰し、その業績を国内外のメディアを通じて世界的に広報することにより、同様に人びとの幸福と平和な社会づくり、ひいては世界平和に貢献している人びとや関係者を激励し、真の人間性への信頼を喚起し、同様の活動に従事する人びとが多く輩出する事を目的としている。

#### （1）庭野平和賞

第 28 回庭野平和賞贈呈式を平成 23 年 7 月 23 日午前 10 時から京都市東山区東町 230 番地の立正佼成会京都普門館で開催した。当日は同受賞者であるタイの社会活動家で仏教者国際連帯会議の共同設立者であるスラック・シワラック氏はじめ、宗教者、学識経験者、NGO 関係者、マスコミなど約 120 名の来賓が参加し、選考経過報告、財団名誉会長挨拶、正賞と副賞の贈呈、来賓祝辞のあと受賞者による記念講演とそれを受けて、有識者によるパネルディスカッションでフロアとの質疑応答などのプログラムを実施した。

平成 24 年 2 月 29 日午後 2 時から京都の立正佼成会普門館において、京都宗教記者クラブ所属の新聞社、通信社の記者に対して、庭野欽司郎理事長から第 29 回庭野平和賞受賞者の発表を行った。すなわち、受賞者氏名、贈呈理由、受賞者の略歴等を公表した。また、同時にローマ教皇庁内のバチカン記者クラブとジュネーブにある世界教会協議会（WCC）において上記と同じ内容の英文資料を関係者を通じて配布した。第 29 回庭野平和賞受賞者はグアテマラ共和国

の人権活動家でコナビグア（連れあいを奪われた女性たちの会）の共同設立者である、ロサリーナ・トゥユク・ベラスケス氏である。なお、第 29 回庭野平和賞贈呈式は平成 24 年 5 月 10 日（木）六本木にある国際文化会館で開催することが決定した。

## （2）庭野平和賞委員会

平成 23 年 1 月 15 日に第 29 回庭野平和賞候補者推薦の推薦書受付を締め切った。全世界 125 カ国の 620 人の推薦人に推薦を依頼し、3 件、新たな推薦があった。平成 23 年度に入り、第 29 回の平和賞受賞者の選考作業を開始した。まず、7 月 22 日に平和賞執行委員会を開催し、候補者名簿の確認と選考プロセスの確認を行った。その後、2 度のスクリーニングを経て、10 月 25 日開催の平和賞委員会委員会において、第 29 回庭野平和賞受賞者を上記、グアテマラのロサリーナ・トゥユク・ベラスケス氏に贈呈することを決定した。

## C. 宗教的精神にもとづく平和のための活動及び研究に対する助成事業

人びとの幸福と平和な社会づくり、ひいては世界平和の推進を目指した宗教的精神にもとづく平和のための活動と研究へ資金助成を行う。本事業は 1. 「公募による助成」、2. 「非公募による助成」、3. 「指定寄付による助成」から構成される。

### 1. 公募による助成

平成 23 年度前期は平成 23 年 6 月 28 日に公募助成小委員会を開催し、前期申請件数 59 件の中から 11 件を採択。前期助成総額は 4,960,000 円。後期は平成 23 年 9 月 26 日に公募助成小委員会を開催し、後期申請件数 41 件の中から 9 件を採択。後期助成総額は 5,000,000 円であった。

### 2. 非公募による助成

#### （1）NPF プログラム

平成 23 年度は以下の事業を助成した。

- a. 申請事業：国際協力 NGO 次世代リーダー育成事業 全体共有会開催

申請団体：国際協力 NGO センター

助成額：1,900,000 円

b. 申請事業：第 3 回九条アジア宗教者会議

申請団体：九条アジア宗教者会議

助成額：1,500,000 円

c. 東アジア低炭素地域づくり青年ワークショップ

申請団体：ARI - Asia Regional Initiative-韓国

助成額：960,000 円

また、NPF プログラム助成小委員会は、平成 23 年 5 月 24 日、同 9 月 28 日、同 11 月 29 日、平成 24 年 1 月 24 日に開催された。

## (2) 臨時助成

以下を事務局起案、NPF プログラム小委員会による審議の後、理事長が決裁し、臨時助成を行った。

a. 申請事業：「東日本大震災基金」勧募への協力

申請団体：公益財団法人助成財団センター

助成額：300,000 円

決裁日：平成 23 年 6 月 29 日

b. 申請事業：福島こどもプロジェクト

申請団体：ピースボート

助成額：200,000 円

決裁日：平成 23 年 7 月 13 日

c. 申請事業：年末・年始、生活困窮者への炊き出し活動支援

申請団体：NPO 法人「TENOHASHI」、山谷労働者福祉会館活動委員会、フードバンク、セカンドハーベスト・ジャパン、基督教団神奈川教区寿地区センター、日本聖公会浅草聖ヨハネ教会、聖公会渋谷野宿者支援活動、のじれん(渋谷)

－合計 8 団体  
助成額：1,000,000 円  
決裁日：平成 23 年 9 月 30 日

### 3. 指定寄付による助成 - 現在は“南アジアプログラム”を実施 -

(南アジアプログラム)

平成 23 年度は、インド、バングラデシュ、スリランカの助成継続中事業のモニタリングと助成終了事業の事後評価事業を実施した。概要は以下の通り。

<インド>

以下の助成継続中事業のモニタリングを実施した。

- Sahayogini
- Life Education and Development Support (LEADS)
- Lok Swar
- Shramajivi Mahila Samiti (SMS)

また、以下の助成終了事業の事後評価事業を実施した。

- Agrarian Assistance Association (AAA)
- Jan Chetna Manch Bokaro (JCMB)

<バングラデシュ>

以下の助成終了事業の事後評価事業を実施した。

- Social Association for Rural Advancement (SARA)

- Bolipara Nari Karayon Shomiti (BNKS)

また、以下の助成継続中事業のモニタリングについて、今後実施する予定である。

- Parittran

<スリランカ>

スリランカにおける本事業は、以下 2 件への支援終了を持って、平成 24 年 3 月に終了した。

- Uwawellasa Women' s Farmer' s Association (UWFWO)
- Aham

今後、それら 2 件への事後評価事業を実施する予定である。



## 2. 庶務の概要

平成 23 年度の庶務の概要につき、以下のとおり報告する。

### 1. 会議開催状況

理事会、評議員会、監査等の開催状況は次の通り。

#### (1) 理事会

##### 第5回理事会（平成23年6月7日）

第1号議案 「平成22年度（H22年12月～H23年3月）事業報告(案)及び決算(案)」  
の件

第2号議案 「資産運用基本方針」の件

第3号議案 「会計処理規程」の件

第4号議案 「第3回評議員会開催」の件

第5号議案 「助成委員会規程」の件

報告事項 1. 評議員会決議事項「役員及び評議員の報酬等及び費用に関する規程」変更の件

##### 第6回理事会（平成23年8月19日）（書面による理事会）

第1号議案 「第4回評議員会を「決議の省略」の方法により行うことに関する  
件」

第2号議案 「庭野欽司郎理事の報酬の額の決定」

##### 第7回理事会（平成24年3月8日）

第1号議案 「平成24年度事業計画（案）及び予算（案）」の件

第2号議案 「第5回評議員会開催」の件

報告事項 1. 平成23年度収支決算見込について

2. ポートフォリオ運用について

3. 第8回理事会の開催日について

(2) 評議員会

第2回評議員会 (平成23年4月19日) (書面による評議員会)

報告事項 「公益財団法人庭野平和財団の平成23年度事業計画及び予算」の件

第3回評議員会 (平成23年6月22日)

第1号議案 「平成22年度 (H22年12月～H23年3月) 事業報告及び決算」の件

第2号議案 「役員及び評議員の報酬等及び費用に関する規程」の件

- 報告事項
1. 「助成委員会規程」について
  2. 「資産運用基本方針」について
  3. 「会計処理規程」について

第4回評議員会 (平成23年9月22日) (書面による評議員会)

第1号議案 「評議員1名選任」の件

第5回評議員会 (平成24年3月26日)

- 報告事項
1. 第7回理事会について
  2. 平成24年度事業計画・予算について
  3. 平成24年6月の理事・監事の改選について

(3) 監査

実施日： 平成23年5月27日 (金)

内容： 平成22年度 (平成22年12月1日～平成23年3月31日) 会計監査・業務監査

3. 寄付の状況

- ア. 受付件数 7件  
イ. 受付金額 10,734,092円

4. 事務局人員構成 (平成24年3月31日現在)

常勤	野口 陽一	専務理事
	高谷 忠嗣	事務局長
	大友 伸洋	総務主査・助成担当
	片桐 光代	総務部総務担当
	仲野 省吾	南アジアプログラム・プログラムコーディネーター
非常勤	中島 由佳	事業開発担当

以上